

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

広島県 三次市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	31.21	94.83	2,937

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
53,204	778.14	68.37
16,469	5.12	3,216.60

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

●収益的収支比率、企業債残高対事業規模比率  
平成29年度の収益的収支比率は9.3%、7.6%で、昨年度に比べ4.62ポイント上昇した。要因は、料金収入が増加したためである。収益的収支比率は、年々改善傾向にはあるが、一般会計からの繰入金に依存しているところが大きい。今後は経営改善に努めるとともに、使用料の適正化に努める必要がある。企業債残高対事業規模比率は、企業債の償還の殆どを一般会計からの繰入金で賄っている。

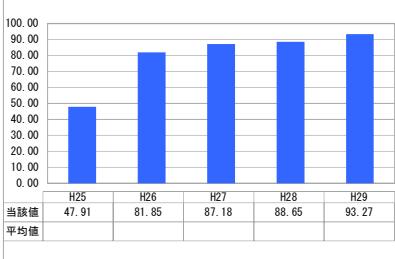
●経費回収率、汚水処理原価  
平成29年度の経費回収率は、昨年度に比べ汚水処理費用が減少し、料金収入が増加したため5.12ポイント上昇し、平均値を上回った。今後も回収率の向上のため、適正な使用料収入の確保と汚水処理費の削減が必要である。汚水処理原価は、昨年度に比べ1.87円改善している。これは、一部特環地区的公共下水道への接続により、年間有収水量が増加したためである。今後も、経常的経費の節減と適正な経費回収に努める。

●施設利用率、水洗化率  
平成29年度は、施設利用率が昨年度に比べ8.07ポイント低下している。水洗化率は平均値を下回っているものの、接続人口が毎年増加しているため年々向上している。今後も、充当可能財源を確保し、計画的な拡張事業や新事業を図りながら、水洗化率向上に努める。

### 2. 老朽化の状況について

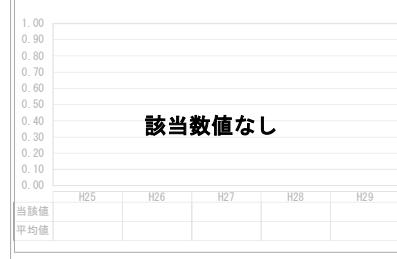
平成3年から下水道工事に着手し、平成12年から供用開始しているため、管渠の老朽管等の更新については、ストックマネジメント計画の導入により計画的な更新に努める。

①収益的収支比率(%)



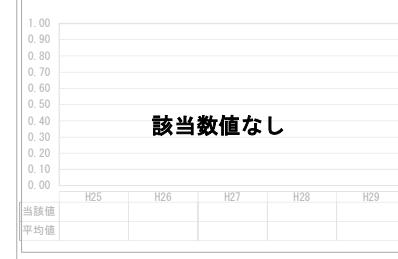
「単年度の収支」

②累積欠損金比率(%)



該当数値なし

③流動比率(%)



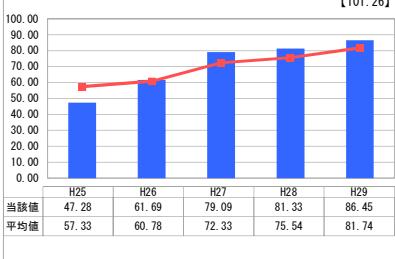
該当数値なし

④企業債残高対事業規模比率(%)



「債務残高」

⑤経費回収率(%)



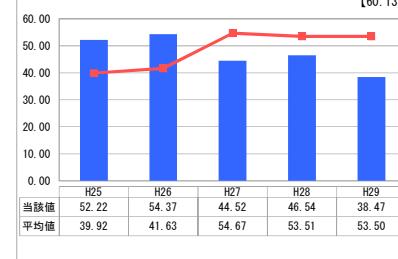
「料金水準の適切性」

⑥汚水処理原価(円)



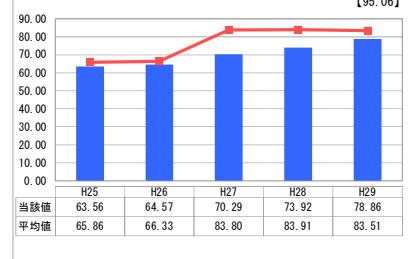
「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)



「施設の効率性」

⑧水洗化率(%)



「使用料対象の捕捉」

①有形固定資産減価償却率(%)



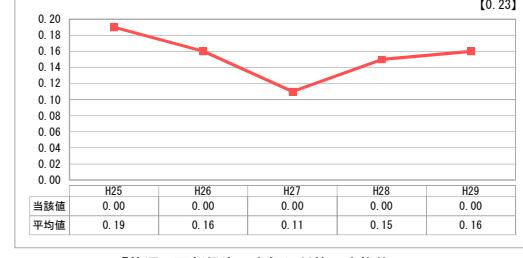
該当数値なし

②管渠老朽化率(%)



該当数値なし

③管渠改善率(%)



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

## 全体総括

面整備率が未だ7.5%程度であり、現状では施設利用率や水洗化率が適切な水準に達していない状況にある。平成31年度4月からの公営企業会計化移行後は、施設効率の改善や料金体系の見直しを行なうながら、計画的な事業展開に努める。